

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立春日出中学校

令和 7 年 4 月

大阪市立春日出中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）
学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

校内アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が 83.4%（肯定的な回答は 96.7%）、「学校のルールを守って生活している」の項目について、肯定的回答の割合が 96% を超えていることから、生徒が主体の学校、落ち着いた学校環境が醸成されていると思われる。今年度も指導内容を充実させていく。不登校在籍比率は令和 5 年度、6 年度とあまり変わらない状況であるものの、多様な学び方を推進し、減少に向け関係諸機関や地域・家庭と連携し様々な働きかけを行いながら個に応じた教育を行い、中期目標を達成する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「主体的で対話的な深い学び」の現状において 85% の生徒が肯定的な回答を寄せている。また、積極的に I C T を活用した日常の取り組みは肯定的な回答が 78.7% であり、令和 5 年度（82%）よりも減少したが、ただ使用することだけを目標としたのではなく、効果的な使用に着目した結果である。I C T を活用すること、または、I C T を活用せずにアナログで行うことのベストミックスを考え、効果的に I C T を活用して学力向上につなげる。

小学校からの基礎学力の定着と自学自習の習慣化が長年の課題である。「授業以外の主体的な学習、宿題を含む家庭学習をやり切る習慣」が身についていない生徒が多いため、学習動画コンテンツを上手く活用し、家庭学習にもつなげる。また、本を読む習慣が身についている生徒も少ないため、継続して朝読書を実施する。定期テスト前に学習強化週間を設け、補習、並びに自学自習、目的にあった学習支援などを積極的に実施する。体力面では、昨年度、男子は大阪市平均を上回ったものの、女子は大阪市平均を下回る結果になった。引き続き、体育の授業で理論的な説明や練習を行うとともに、さらに体を動かすことに興味を深める取り組みを構築し、楽しいから体を動かす、動かすから体力が向上するという好循環を生み出せるようにしていく。

【学びを支える教育環境の充実】

すべての教室にプロジェクターを設置しており、3 年生の教室にはモニターも設置済みである。1・2 年生の教室については、校長戦略支援予算を活用し、随時、設置する予定である。これらの I C T 機材を活用し、授業の質の改善を図ってわかりやすい授業を展開し、多様性を持った様々な角度からのアプローチを実施していく。一人一台端末の有効的な利用に関しては授業や家庭学習等の学習面の活用はもちろんのこと、生徒の内面の変化の把握にも利用し、「安全・安心な教育の推進」の実現にも活用する。教職員の働き方については、超過勤務の実態はかなり改善してきた。校務の効率化および I C T 活用の促進を図り、働き方改革を推進していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、83.5% 以上にする。
(R6 83.4%)

○毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
(R6 13.7%)

○令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、89%以上にする。

(R6 88.9%)

○令和7年度の校内調査の「生徒会や委員会、学級での班や係活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、82%以上にする。(R6 80.3%)

○令和7年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 96.4%)

○令和7年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 96.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を55%以上にする。(R6 52.4%)

○令和7年度末中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において、いずれの学年も1.00以上とする。

(R6 1年：国0.93 数1.07 2年：国1.00 数0.93 3年：国1.03 数0.99)

○令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を52%以上にする。

(R6 51.8%)

○令和7年度末の校内調査における規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」)それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和7年度末校内アンケートにおいて、84.9%以上、87.6%以上にする。

(R6 朝食を毎日食べていますか：84.8%、毎日、同じくらいの時刻に起きていますか：87.5%)

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合(4技能)を56.2%以上にする。(R6 56.1%)

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の授業日において学習者用端末を毎日使用した割合(ただし、学校行事等ICTの活用が適さない日数を除く)100%とする。(R6 100%)

○令和7年度末までにICTを活用した授業において、全教員で年間のべ8090時間以上とする。(R6 8088時間)

○令和7年度末までに年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合に100%とする。(R6 88.6%)

○令和7年度末までにゆとりの日を週1回以上とする。(R6 10回)

○令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、95%以上にする。(R6 78.7%)

○令和7年度末までに学校閉学日については、夏季休業期間中は5日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては5日以上設定する。(R6 夏9、冬10日)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 83.5%以上にする。

(R6 83.4%)

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 13.7%)

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 37.8%)

○校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、肯定的回答の割合を前年度より増加させる。(R6 96.1%)

○年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 96.4%)

○年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、89%以上にする。

(R6 88.9%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。(R6 52.4%)

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

(R6 1年：国 0.93 数 1.07 2年：国 1.00 数 0.93)

○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 56.2%以上にする。(R6 56.1%)

○校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度より増加させる。(R6 93.6%)

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 51.9%以上にする。

(R6 51.8%)

○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において、市平均を上回る。(R6 男子+1.0 女子-0.7)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く〕

(R6 25.9%)

○ICT を活用した授業において、全教員で昨年のべ 8090 時間を上回る。

(R6 8088 時間)

○学校閉学日については、夏季休業期間中は 5 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 5 日以上設定する。(R6 夏 9、冬 10)

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする (R6 88.6%)

○ゆとりの日を週 1 回以上とする。(R6 10 回)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

(様式 2)

大阪市立春日出中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 毎年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 83.5% 以上にする。(R6 83.4%)</p> <p>② 毎年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を毎年前年度より減少させる。(R6 13.7%)</p> <p>③ 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 37.8%)</p> <p>④ 校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、肯定的回答の割合を前年度より増加させる。(R6 96.1%)</p> <p>⑤ 年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 96.4%)</p> <p>⑥ 年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、89%以上にする。(R6 88.9%)</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部) 生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。</p> <p>指標 「クラス・学校は楽しい。学校生活は充実している。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする (R6 87.3%)</p> <p>取組内容②③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】(生活指導部・教務部) 不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)を充実させ、並びに学習・授業動画を活用し学びの保障を充実させる。</p> <p>指標 「自分のことを理解してくれる先生がいる。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合 82%以上にする。(R6 80.6%)</p> <p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】(生活指導部) 集会、行事、学級活動など、学校生活において生徒が主体となれるよう指導をしていくとともに、目安箱の設置、校則の見直しなどをして、生徒同士が自立心を高めていける取り組みを行う。</p> <p>指標 「生徒会や委員会、学級での班や係活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、82%以上にする。(R6 80.3%)</p> <p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】(健康教育部)</p>	進捗状況

保健委員会活動として学期に1回以上の特別清掃日を設ける。学級の清掃重点目標を決め、生徒全員が意識的に毎日の清掃活動を行えるように指導する。

指標 年度末の校内調査の「清掃活動に積極的に参加している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 97.5%)

取組内容⑤【基本的な方向2、豊かな心の育成】(生活指導部)

各家庭でのスマホの使い方やルールを決めるなどを積極的に生徒・保護者に働きかけ、学校現場以外の機関にも協力を求めながら、実際に起きている事案をもとに、スマホの適切な使い方を指導する。

指標 「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 96.4%)

取組内容⑥【基本的な方向2、豊かな心の育成】(生活指導部)

生徒の防災への意識を高め、さらに、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく。

指標 「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度より増加させる。(R6 90.0%)

・区役所、地域共同の防災訓練と全校生徒集団下校訓練の実施

・保健体育科と連携し、

3年生：普通救命講習Ⅰを受講し、資格を獲得させる

2年生：保健の授業で心肺蘇生法、心臓マッサージの実技体験

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立春日出中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>①年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。(R6 52.4%)</p> <p>②中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。(R6 1年：国 0.93 数 1.07 2年：国 1.00 数 0.93)</p> <p>③大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 56.2%以上にする。(R6 56.1%)</p> <p>④校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度より増加させる。(R6 93.6%)</p> <p>⑤年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 51.9%以上にする。(R6 51.8%)</p> <p>⑥全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において市平均を上回る。(R6 男子+1.0 女子-0.7)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】（教務部） 年間 1 回以上の研究授業・相互授業参観・教員の研修を行い、授業を通じて、主体的・対話的な深い学びを目指した授業づくりに取り組む。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。(R6 52.4%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】（国語科・数学科） 基礎学習定着のため日々の小テスト・単元テストを取り入れる。</p> <p>指標 チャレンジテストの「知識・技能」の観点の得点率(平均点/配点)の項目の 3 学年の平均を大阪府に対し国語が-2.0 以上、数学が-1.0 以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】（英語科） 基礎学習定着のため日々の小テスト・単元テストを取り入れ、C-NET と会話する機会や自分の考えを英語で書く時間を計画的に授業の中で取り入れる。</p> <p>指標 校内英語科アンケートの「英語の授業で、英語を聞く、読む、書く、話す活動に積極的に参加できている」の項目について肯定的回答を 80%以上にする。</p>	
取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】（教務部） 校内定期テストにおいて、生徒の受験への積極的な取り組み姿勢を構築するため、	

<p>テスト前学習補習時間を設定し、学習強化週間とする。</p> <p>指標 学校評価アンケートの「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度より増加させる。(R6 93.6%)</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】(保健体育科) 体育の授業において興味関心が高く、運動量を確保できる種目を実施する。</p> <p>指標 「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を51.9%以上にする。(R6 51.8% : 男子 : 61%・女子 : 38%)</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向5、健やかな体の育成】(保健体育科) 体育の授業において、自ら体を動かしトレーニング効果を実感できるように内容を工夫していく。</p> <p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において市平均を上回る。(R6 男子+1.0 女子-0.7)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立春日出中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする [ただし、事務局が定める学校行事 I C T 活用が適さない日数を除く] (R6 25.9%)</p> <p>② I C T を活用した授業において、全教員で昨年のべ 8090 時間を上回る。 (R6 8088 時間)</p> <p>③ 学校閉学日については、夏季休業期間中は 5 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 5 日以上設定する。 (R6 夏 9 日、冬 10 日)</p> <p>④ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100% にする。 (R6 88.6%)</p> <p>⑤ ゆとりの日を週 1 回以上とする。 (R6 10 回)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①②【基本的な方向 6、教育 D X の推進】(I C T 委員会) 年間で 1 回以上 I C T に関する研修を行うと共に、学習者用端末の使用率向上のために I C T 支援員と協力し、各教科での学習者用端末を使用した授業の研究を促進する。	
指標 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、肯定的な回答の生徒の割合を、80% 以上にする。 (R6 78.7%)	
取組内容③④【基本的な方向 7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】(安全衛生委員会) 月 80 時間以上長時間勤務対象者を昨年度よりも減少させる。	
指標 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100% にする。 (R6 88.6%)	
取組内容⑤【基本的な方向 8、生涯教育の支援】(安全衛生委員会) 時間外勤務時間を月ごとに周知し、産業医とともに労働時間改善に向け積極的に働きかける。	
指標 ゆとりの日を設け、週 1 回以上を実施する。 (R6 10 日)	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	